

熱帯有用品種の品種改良あれこれ



熱帯の樹木には有用な樹種がたくさんあります。今回は、西表熱帯林育種技術園で進めてきた品種改良について紹介します。

講師 加藤一隆（西表熱帯林育種技術園）

当園で進めてきた熱帯有用樹種の品種改良

西表熱帯林育種技術園は、平成8年に設置された比較的新しい機関です。当初は、JICAプロジェクトの技術開発場所としてアカシア属やユーカリ属等の外来早生樹を対象として試験研究を行っていました。その後、JICAプロジェクトの終了とともに、産学官連携による共同研究を実施し、人工交配による効率的なアカシア・ハイブリッド（アカシア・マンギウムとアカシア・アウリカリフォルミスの交配）の創出に関する研究課題に取り組みました。その結果、従来のチューブを用いた交配手法を改良し、採取直後の花粉だけでなく冷凍貯蔵した花粉を用いた場合でも一交配あたりの時間を非常に短縮しながら、しかもたくさんの成熟種子を得ることのできる技術を開発いたしました。現在の研究テーマは、アカシア・ハイブリッドに関する実用化研究とともに郷土樹種に関する試験研究も開始し、具体的にはクサミズキ及びワダツミノキ（絶滅危惧種、抗がん剤物質を含有）の諸形質の種内及び種間変異に関する研究、キナノキ（抗マラリア物質を含有）の増殖技術の確立に関する研究、防風効果の高い樹木の育種（優良なテリハボクの個体選抜）研究を行っています。



左上：アカシアの人工交配
右上：得られた成熟種子
左下：まき付け後の発芽した苗
右下：育苗6カ月後の苗



左上：ワダツミノキとクサミズキ
右上：育苗中のキナノキ
左下：球果を付けたテリハボク
右下：育苗中のテリハボク